

中川村「日本で最も美しい村」づくり推進計画



the most beautiful
villages in japan

中川村
長野県

中川村美しい村づくり協議会
平成30年2月

目次

はじめに	2
第1章 計画の概要	3
計画策定のねらい	
計画の内容	
計画期間	
計画の評価検証	
第2章 基本方針	4
基本方針1 地域経済の振興	
基本方針2 地域の魅力を守り育てる	
基本方針3 中川村ファンづくり	
第3章 美しい村づくりのための取り組みと検証	5
具体的な施策と実施主体	5
基本方針1 「地域経済の振興」の実現に向けて	5
(1) 地域の中で循環する経済を確立するために	
① 農地を守り活用する取り組み	
② 森林を守り活用する取り組み	
③ 河川を守り活用する取り組み	
④ 村内で循環する経済の流れを意識する取り組み	
(2) 商工業の活性化のために	
(3) 持続可能な地域社会を実現するために	
基本方針2 「地域の魅力を守り育てる」ことの実現に向けて	9
(1) 地域資源を継承するために	
① 美しい景観を維持する取り組み	
② 魅力ある文化や営みを引き継ぐ取り組み	
(2) 地域力を維持するために	
(3) 地域の中で子どもを育てる	
基本方針3 「中川村ファン」づくりの実現に向けて	13
(1) 交流人口を増やして暮らしの豊かさに誇りを持つために	
資料編	14

はじめに

NPO法人「日本で最も美しい村」連合は、平成17（2005）年10月に設立しました。失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観や環境・文化を守り、地域資源を生かしながら美しい村として自立を目指す活動を展開しています。今、日本各地で脈々と受け継がれてきた美しいふるさとの風景が消えようとしています。黄金色に輝く秋の棚田や、古民家が連なる集落の佇まい、五穀豊穰を願う祭りなどは、地域に根付いた暮らしの営みにより生まれ、多くの人々の手で大切に守られてきました。しかし、過疎化や少子高齢化が進む中で、人々が故郷から離れ、地域と人との関わりが希薄になると、田畑は荒れた山野となり、祭りの継続や集落の維持そのものが困難になりかねません。どんなに素晴らしい地域資源があっても、そこに暮らす人々がいて、その価値を認め応援し支え合う人々がいなければ、守り続けることは難しいのです。地域資源を持つそれぞれの町や村が自らのふるさとに誇りを持ち、切磋琢磨しながら自立した地域づくりに取り組むことは、日本の原風景を守ることにもつながります。

「日本で最も美しい村」の活動とは、自然と人間の営みが長い年月をかけて作り上げた本当に美しい日本を、小さくてもオンリーワンの輝きを持つ日本の美しい村を未来に残すことです。

中川村美しい村づくり協議会は平成23年10月の設立以来、地域資源を活用した地域と経済の活性化、持続可能な共同体の形成を目指して活動しています。美しい村づくりとは何か。それは自立した地域づくりによって、中川村の営みを守る取り組み全てです。本計画により、中川村の美しい村づくりがさらに活発になることを期待します。

平成30年2月8日

中川村美しい村づくり協議会

第1章 計画の概要

計画策定のねらい

中川村は、平成20（2008）年10月にNPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟しました。中川村の美しさは、私たちの暮らしにあります。地域資源である景観・環境・文化の保全とその活用を図り、美しい中川村での暮らしを将来にわたって守り育て、引き継ぐことが必要です。

そこで、中川村「日本で最も美しい村」づくり推進計画を策定し、美しい村づくりの推進を図ります。

計画の内容

この計画は、具体的な取り組みを共有し、美しい村の活動を推進するため、3つの基本方針に基づき、具体的施策と実施主体を明確にします。

計画期間

計画期間は、平成30（2018）年度を初年度とし、平成34（2022）年度を目標年次とする5カ年とします。

計画の評価検証

美しい村づくりを推進するため、実施主体は基本方針に沿って具体的な取り組みを進めます。

毎年度それぞれの実施主体が実施した事業をとりまとめ、中川村美しい村づくり協議会において評価検証を行います。計画（Plan）の見直しはPDCAサイクルにより、事業の進捗（Do）、目標達成状況の確認（Check）、改善の検討（Action）を行い、当初計画や事業進捗による問題点、事業の有効性などを確認しながら実施します。

第2章 基本方針

私たちの暮らす中川村は、東に南アルプス、西に中央アルプスの山並みが連なり、その間を天竜川が流れる伊那谷の中央にあります。私たちの暮らしは、農地や里山、河川など、自然からの恵みに支えられ、独自の風土・文化を紡ぎ、受け継いできました。また、自然と調和した持続可能な美しい村づくりから、現代社会の抱える多くの問題を解決するヒントを探り、美しい村の運動を広げます。

美しい中川村での暮らしを将来にわたって守り育て将来に引き継ぐため、基本方針を以下のとおり設定します。

—基本方針1 地域経済の振興

私たちは古くから自然との関わりの中で生活し、生産物の取り引きによって暮らしを豊かにしてきました。遠く広がった経済は、物質的な豊かさを生み出した一方で、顔の見えにくい関係性が増えています。そこで、お金以外の価値、幸せや喜び、やりがいなども生み出してくれる地域循環型の経済を形成し、つながりを感じやすい取り引きを増やします。

また、金銭的な取り引きのみに捉われず、お互いの支え合いを大切にして「内発的な発展」を目指します。地域振興のために、中川村でできることを広げながら、豊かに生活できる自立の村づくりに取り組みます。

—基本方針2 地域の魅力を守り育てる

私たちの暮らしの中には、先人たちが守ってきた文化や伝統、景観など美しいものがたくさんあります。次の世代へ受け継ぐべき地域の魅力をみんなで考え、共有することが大切です。文化や伝統は、なぜそれらが今まで続けられてきたのか、なぜ大切にされてきたのか、助け合いながら長年守り伝えられてきたことの意味を考えます。合わせて地域の担い手を育成し、文化の伝承を支えます。

景観資源についても、適正な管理や景色に調和した周辺整備を行い、将来に向けて守り育てます。

—基本方針3 中川村ファンづくり

村を越えて大きく関連しあう社会の中で、村内の取り組みだけでは、私たちの暮らしを守るのはとても難しいことです。中川村を全国へ向け発信し、ファンを増やし、交流人口の増加を目指します。交流は、私たちの暮らしに誇りを持つきっかけとなるだけでなく、私たちの気付かなかった暮らしの中の課題などを発見し、より魅力的な地域づくりにもつながります。

第3章 美しい村づくりのための取り組みと検証

具体的な施策と実施主体

基本方針に沿った取り組みを進めるために、村民一人ひとりができることから美しい村づくりを実践することが大切です。地域住民、地域づくり団体、企業、行政などの役割を明確にし、美しい村づくりを推進します。

基本方針1 「地域経済の振興」の実現に向けて

(1) 地域の中で循環する経済を確立するために

① 農地を守り活用する取り組み

農地を荒廃させることなく、耕作や栽培を行うことは、自然環境を保全することや暮らしの景観を形成することにもつながります。そのため、農地を将来に引き継ぐ取り組みを進めます。

具体的な取り組み	実施主体
農地、農業施設の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・地区環境保全活動組織 ・地区・集落営農組織 ・上伊那農業協同組合 ・中川村営農センター ・中川村
農業法人、大規模農家、新規就農者など農業の担い手確保	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・地区・集落営農組織 ・上伊那農業協同組合 ・中川村営農センター ・中川村
農業経営の安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・地区・集落営農組織 ・上伊那農業協同組合 ・中川村営農センター ・中川村
農業用施設の多面的活用 (小水力発電、新たな作物の作付による景観形成等)	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・地区環境保全活動組織 ・中川村
農業の6次産業化 (農産物加工施設の有効活用やワイン生産などの研究等)	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・農産物加工組織 ・中川村営農センター ・中川村
耕作放棄地の解消	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・土地所有者 ・地区環境保全活動組織 ・地区・集落営農組織 ・上伊那農業協同組合 ・中川村農業委員会 ・中川村営農センター ・中川村
有害鳥獣対策	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・農作物有害鳥獣駆除対策協議会 ・上伊那農業協同組合 ・中川村

② 森林を守り活用する取り組み

村の森林面積は総面積の約77.5%と広く、集落に近い里山では山菜採りやきのこ狩り、薪の切り出し、竹材利用など様々な面で活用されています。今後も森林との関わりを継続します。

具体的な取り組み	実施主体
健全な森林の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・林業者 ・上伊那森林組合 ・中川村
緑の少年団活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 ・中川村
竹林の整備、竹材の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・竹林所有者 ・森林整備団体 ・中川村
森林資源の利用促進と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那森林組合 ・森林整備団体 ・住民 ・中川村
木質バイオマスエネルギーの活用研究	<ul style="list-style-type: none"> ・森林バイオマス活用協議会 ・上伊那森林組合 ・中川村

③ 河川を守り活用する取り組み

村の中央を流れる天竜川を始め、村内には大小さまざまな河川があります。各地区ごとの河川愛護活動や、河川美化清掃、外来種のアレチウリ駆除など、河川を守る取り組みが行われています。今後も河川との関わりを継続します。また、河川、水辺空間を活用し、住民の憩いと地域の活性化につなげます。

具体的な取り組み	実施主体
河川の維持管理と環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・住民 ・地区 ・中川村
親水環境の整備（利水の活用など）	<ul style="list-style-type: none"> ・中川村

④ 村内で循環する経済の流れを意識する取り組み

直売所の利用やご近所、親戚どうしのお裾分け、自家消費などにより、村で採れたもの、できたものを村で消費する仕組みがあります。また、村内の企業との顔の見える取引は、信頼できる魅力的なものです。中川村産の農産物や里山の恵みを食べることで、村内での取引を大事にすることを意識して日常生活の中に取り入れます。村で生活する人々が日常の中で、幸せや喜び、やりがいなどを実感し合うことのできる地域循環型の経済を広げます。

具体的な取り組み	実施主体
メイドインなかがわを意識した取引（地産地消）	<ul style="list-style-type: none"> ・住民 ・上伊那農業協同組合 ・中川村商工会
直売所の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・住民 ・上伊那農業協同組合
里山の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・森林所有者 ・中川村猟友会 ・かつらの丘ジビエ工房 ・上伊那森林組合
学校及び保育園給食での村内産食材の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい野菜届け隊 ・中川村学校給食センター ・保育園 ・中川村

(2) 商工業の活性化のために

地域経済の振興には、村内商工業の活性化が欠かせません。地元企業の強みを活かして、信頼できる顔の見える取引の継続を図ります。

具体的な取り組み	実施主体
人材確保と事業の継続 (雇用の拡大、後継者の育成など)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者 ・中川村商工会 ・中学校 ・中川村
創業支援	<ul style="list-style-type: none"> ・中川村商工会 ・中川村
特産品及びふるさと名物の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・事業者 ・中川村商工会 ・中川村

(3) 持続可能な地域社会を実現するために

大都市集中型の大量消費社会は、さまざまな歪みを生み出し、グローバルな経済は、村での暮らしに困難な状況をつくり出しています。美しい村づくりを通して持続可能な地域社会のモデルづくりを進めます。

具体的な取り組み	実施主体
ごみの資源化、減量化 (農地還元の推進、分別の徹底、野焼きの禁止など)	・住民 ・事業者 ・小中学校 ・中川村
環境保全型農業の推進	・農家 ・上伊那農業協同組合 ・中川村

基本方針 2 「地域の魅力を守り育てる」ことの実現に向けて

(1) 地域資源を継承するために

① 美しい景観を維持する取り組み

村での営みは長い年月をかけて美しい景観を育ててきました。何気ない村の風景も、村で生活する私たちの心に深く刻まれています。私たちが自然とともに生きている暮らしの風景が何よりも美しいことを認識し、村の美しい営みを実感できる田園風景を守り育てていきます。

具体的な取り組み	実施主体
幹線道路沿線の景観形成 (道路愛護、道路里親制度の推進など)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民 ・地区 ・地域づくり団体 ・事業者 ・中川村
ごみ拾い活動	<ul style="list-style-type: none"> ・住民 ・地区 ・小中学校 ・事業者 ・中川村建設業協会 ・中川村商工会 ・中川村観光協会 ・中川村
道路の維持管理 (維持管理、花壇の整備など)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民 ・地区 ・中川村
景観に配慮した看板の更新	<ul style="list-style-type: none"> ・既存看板主 ・中川村商工会 ・中川村
公園、緑地の維持管理と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・住民 ・地区 ・中川村
環境に配慮した公共工事の推進 (道路石積みやガードレールなど構造物への配慮等)	<ul style="list-style-type: none"> ・中川村建設業協会 ・中川村

② 魅力ある文化や営みを引き継ぐ取り組み

地域で長年続けられてきた伝統芸能やお祭り、営みの技術や知恵などの文化も重要な地域資源です。それらは表面的な意味だけでなく、受け継がれる過程にも意味があることを伝えながら、次世代の担い手に継承します。

具体的な取り組み	実施主体
地域文化の継承 (地域伝統芸能、祭事、年中行事、営みの技術や知恵など)	・住民 ・地区 ・地域づくり団体
地域文化の振興	・住民 ・地区 ・地域づくり団体 ・中川村教育委員会 ・中川村
歴史的遺産、歴史的景観、文化財の保存・保全	・住民 ・地区 ・地域づくり団体 ・中川村教育委員会 ・中川村

(2) 地域力を維持するために

私たちの生活は、地域の協働によって成り立ち、みんなで支え合いながら暮らしています。人口減少や少子高齢化は、地域力の低下につながるものが懸念されます。村や地区の魅力を高め、誰もが暮らしやすい地域づくりを進めることで地域力維持の取り組みを多角的に進めます。

具体的な取り組み	実施主体
地区運営の効率化	・住民 ・地区
地域の担い手の育成	・住民 ・地区
子育てをしやすい環境づくり	・住民 ・地区 ・小中学校PTA ・中川村
結婚活動の支援	・住民 ・中川村社会福祉協議会 ・中川村
空き家等の活用	・地区 ・中川村
分譲地の整備	・地区 ・中川村土地開発公社 ・中川村
公営、村営住宅の整備	・中川村
帰郷、移住、定住支援	・住民 ・地区 ・中川村

(3) 地域の中で子どもを育てる

美しく豊かな自然環境の中、地域ぐるみで子どもを育みます。子どもは日々の暮らしや地域の行事を通じて、さまざまな社会生活の基本を学び、豊かな人間性と自然との関わり方を身につけます。村全体で子どもの成長を見守ります。

具体的な取り組み	実施主体
地域の子ども会活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区 ・ 小中学校 P T A ・ 小中学校
信州型コミュニティスクールの深化 ※ 学校と地域住民の協働による地域に開かれた信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民 ・ 地区 ・ 小中学校 P T A ・ 小中学校 ・ 中川村教育委員会 ・ 中川村
キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民 ・ 地区 ・ 小中学校 P T A ・ 小中学校 ・ 中川村商工会 ・ 中川村社会福祉協議会 ・ 中川村教育委員会 ・ 中川村
郷土学習・ふるさと愛教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区 ・ 小中学校 P T A ・ 小中学校 ・ 中川村教育委員会 ・ 中川村
青少年健全育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区 ・ 小中学校 P T A ・ 小中学校 ・ 事業者 ・ 青少年健全育成推進協議会 ・ 中川村
自然保育（信州やま保育）の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中川村

基本方針3 「中川村ファン」づくりの実現に向けて

(1) 交流人口を増やし暮らしの豊かさに誇りを持つために

村での豊かな暮らしを都市住民へ伝えることで交流人口を増やします。都市部に住む人々とのふれあいにより、私たちの暮らしの豊かさを再認識し、村での生活に自信と誇りを培います。また、村を愛し支えてくれる村外の支援者を増やし、ファンがファンを呼ぶ仕組みをつくりまします。

具体的な取り組み	実施主体
交流人口を増やす取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベント実行委員会 ・中川村
地域資源を活用した新たなサービスの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・事業者 ・中川村商工会 ・中川村
都市と農村交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・地区 ・中川村観光協会 ・中川村
グリーンツーリズム (ファームサポート、農家民宿など)の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・農家 ・中川村営農センター ・中川村
観光資源の活用 (観光施設整備と活用、観光プログラムの企画開発など)	<ul style="list-style-type: none"> ・住民 ・事業者 ・中川村観光協会 ・中川村
美しい村連合加盟町村との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・中川村観光協会 ・中川村
ファンがファンを呼ぶ仕組みづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・中川村ファン ・中川村観光協会 ・中川村

資料編

中川村が平成20（2008）年に加盟した「日本で最も美しい村」連合は平成17（2005）年10月に設立されてから12年が経過し、加盟町村・地域は設立時の7町村から、中川村加盟時には17町村・地域、現在は63町村・地域へと拡大し、全国的な知名度も徐々に向上しています。「美しい村」とはどんな村であるのかを折りに触れて考え、中川村での生活をより豊かに、将来へ引き継いでいくための活動を推進していかなくてはなりません。中川村「日本で最も美しい村」づくり推進計画を補完するため、資料編として示します。

1 「日本で最も美しい村」の運動の背景

日本では、戦後一貫して経済成長を優先に国家形成が進められてきた結果として、都市形成に向けた地域政策が強く実施されてきました。本来重視されるべき日本に連綿と受け継がれてきた地域文化や生活環境、歴史、景観、食、自然といった地域の価値が軽視される状況が続いてきました。

昨今、そのような状況に疑問を感じ、人間本来の心豊かな暮らし、先人が守り続けてきた貴重な文化を守り、また、それぞれの地域が持つ独自の「価値」を生み出していることを誇りとしながら村づくりを進めていくことへの意識の変化が起りつつある中で、美しい村運動が始まりました。

2 「日本で最も美しい村」の活動とは

「日本で最も美しい村」の活動とは、「失ったら二度と取り戻せない日本の農山漁村の景観や環境・文化を守り、地域資源を活かしながら美しい村としての自立を目指す運動」です。「日本で最も美しい村」を宣言したうえで ①自らの地域に誇りを持ち、将来にわたって美しい地域づくりを行うこと ②住民による街づくり活動を展開することで地域の活性化を図り、地域の自立を推進すること ③生活の営みにより作られてきた景観や環境を守りこれらを活用することで観光的付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与すること、を目指す活動です。

3 中川村と「日本で最も美しい村」の活動

(1) 中川村が美しい村づくりに取り組み始めるきっかけ

連合加盟のきっかけは市町村合併問題における「自立の道」の選択にありました。平成17（2005）年3月を期限とする合併特例法を背景に平成15（2003）年3月、伊南4市町村（駒ヶ根市・飯島町・中川村・宮田村）任意合併協議会が設立されて、市町村合併について協議されました。同年11月から12月にかけて18歳以上の伊南4市町村全住民を対象とした住民意向調査が行われ、駒ヶ根市を除く3町村で合併反対が賛成を上回る結果となりました。同年12月、この調査結果を受けて宮田村が「自

立」を選択したことから、協議会は一旦解散となりました。そして、改めて平成16（2004）年10月、駒ヶ根市、飯島町、中川村合併協議会が設置され協議が進められましたが、平成17（2005）年2月、3市町村で住民投票または住民意向調査が行われ、中川村では合併賛成がわずかに多かったものの、他の2市町で反対が多く、同年3月、協議会は解散となり、村は結果的に「自立の道」を歩むことになりました。

(2) 「日本で最も美しい村」連合への加盟

連合発足当時のメンバーであった大鹿村からの誘いを受け、自立の道を進むにあたって、「美しい村づくり」という考えに共感し、平成20（2008）年10月に「日本で最も美しい村」連合へ加盟しました。連合への加盟は、自立の道を選んだ中川村が豊かな将来を目指すためのひとつの契機です。

4 今後の取り組みの方向性（連合設立10年にあたっての総括）

昨今、農山漁村を取り巻く環境は急激に変化し、グローバル化と市場主義経済という大きな荒波にもまれた影響により人口減少や少子高齢化、耕作放棄地拡大による農業の衰退が加速化しました。一方、外国人観光客の増加や若者たちの田園回帰の動きの中で、地域資源を生かして起業に繋げる新たな価値観が生まれています。こうしたピンチとチャンスがある中で、農林水産業を基幹産業とする「日本で最も美しい村」連合の加盟町村は、持続可能な地域社会づくりのひな型となるような将来への展望を持つことが求められています。

5 中川村の暮らし、自然との関わりと協働

社会の変化に合わせて、中川村での暮らしも変化してきました。自然との関わりも、徐々に少なくなっています。協力し合わないでできることも増え、お互いに支え合いながら暮らす実感も減りました。

自然は多くの恵みをもたらす一方で、天候不順や災害などが猛威を振るうこともあります。また、支え合いながら暮らす村での生活は、とてもありがたく、とても頼もしく、一方ではとても煩わしいものです。協力することで、より多くのことを実現することができますが、考え方の違いを理解し相手を尊重する中で生じる困難もあります。

誰しも、自然との関わりやお互いの協力なしでは生きていけません。中川村での暮らしは、自然を生活の源とし、お互いに支え合うことで成り立っています。

6 中川村の美しい村づくりの現状

「今まで生活してきたこと、村での普段の営みがとても貴重なものであり、美しいこと」という美しい村づくりの考え方が、加盟10周年を迎えようとする今日にも浸透せず、景観問題に主眼をおいた考え方であると捉えている人も多い現状があります。

中川村は今、人口減少や高齢化、担い手不足など様々な問題を抱えています。そ

のような中で、失われてしまいそうな営みが多くあり、「今の暮らしを将来に引き継いでいくということは『美しい村づくり』である」ということを村全体で共有していくことが重要です。

14年前、自立と合併を議論し、自立の道にたどり着いた私たちは、一人ひとりのできることを積み上げ、誇りをもって村の生活を続けていくために、さらに運動を進めていかななくてはなりません。

7 中川村の取り組み

中川村は平成20(2008)年10月に連合加盟が承認され、9年が経過しました。その間、町村境への連合ロゴマーク入り看板の設置や加盟記念フォトコンテストの実施、連合主催の各種行事への参加、連合の呼びかけによる被災地支援の取り組みへの協力、公共案内看板の更新、美しい村づくり協議会の設置、中川村美しい村づくり条例の制定、中川ブランド確立に向けた村内準会員の生産する商品のピーアール、村内不要看板の撤去、多方面への広報活動など、「日本で最も美しい村」の取り組みを推進してきました。平成25(2013)年度には加盟5年目の再審査にも合格し、「日本で最も美しい村」の活動が今日まで継続しています。

8 「日本で最も美しい村」連合から見た中川村

(1) 中川村の地域資源

中川村の地域資源はたくさんありますが、「日本で最も美しい村」連合加盟時に登録されている地域資源は以下のとおりです。

地域資源にさらに磨きをかけると共に、新たな地域資源の発見や創造も重要です。また、地域資源を守るには、村での営みを継続することが欠かせません。

- ① 陣馬形山からの景観
- ② 河岸段丘と里山
- ③ 四徳地区と四徳川の風景

(2) 再審査における講評

平成25(2013)年に実施された加盟5年目の再審査に合格し、村づくりの取り組みが高く評価される一方、課題が示されました。

① 評価されたポイント

- ア 多くの地域住民が結集して自主的に活動する民力が非常に高いこと
- イ センスのよい案内看板、住民協働の景観美化運動や景観ポイントの整備
- ウ 農家民宿や若者の起業など、Iターン、Uターン者の活躍
- エ 美しい村づくり協議会の設立、準会員の増加

② 課題として示されたポイント

- ア 屋外広告物規制の取り組み不足
- イ 美しい村づくり協議会の実行部隊及び成果指標と進捗管理の不在
- ウ 中川村の特徴を生かした食の魅力不足
- エ 着地型観光の一元的受け入れ窓口の欠如

9 「日本で最も美しい村」連合長野県会議の取り組み

平成23（2011）年1月、長野県内の連合加盟7町村（大鹿村・木曾町・中川村・南木曾町・小川村・池田町・高山村）により、「日本で最も美しい村」連合長野県会議を組織しました。平成28（2016）年4月に原村、伊那市高遠（平成27（2015）年10月連合新規加盟）を加え、都市部でのピーアールイベントや県の補助金を活用した事業など連携した取り組みを行っています。

また、長野県会議（現在8町村・地域：大鹿村・木曾町・中川村・南木曾町・小川村・高山村・原村・伊那市高遠）は連合関東中部ブロックとも連携しながら美しい村づくりを進めています。